ISSN 1346-7220

鹿児島大学総合研究博物館

THE KAGOSHIMA UNIVERSITY MUSEUM

Newsletter

NO.43 July 2018

鹿児島大学総合研究博物館　第18回　特別展

# 笠沙の魚たち

*Fishes of Kasasa*

**笠沙恵比寿で開催される鹿児島大学総合研究博物館第18回特別展「笠沙の魚たち」で設営されたオープン前の会場の様子**

笠沙（薩摩半島西岸）は鹿児島県内でも有数の魚類多様性を誇る場所です。笠沙周辺海域では年間千トンを超える魚が漁獲され、出荷されるとともに、一部の魚は生かしたまま国内外の水族館へ搬出されます。また、日本において同海域からのみ記録されている珍しい魚も多く漁獲されています。

笠沙周辺の魚類相を概観し、笠沙の豊かな海を広く一般の方々に知っていただきたいため、この度、鹿児島大学総合研究博物館、笠沙恵比寿、および鹿児島水圏生物博物館が、笠沙町漁業協同組合の協力のもと、鹿児島大学総合研究博物館第18回特別展「笠沙の魚たち」を開催します。

（本村浩之）

# 笠沙の魚類相
# Ichthyofauna of Kasasa

本村浩之（総合研究博物館）

笠沙には黒潮によってフィリピン北部や台湾周辺海域から南方系の魚が運ばれてきます。一方、笠沙沖を流れる薩摩半島南下流（本村，2012）によって、長崎県南部や熊本県から北方系の魚も流されてきます。特に黒潮によって南方から運ばれてくる魚たちは笠沙の豊かな漁場を支えており、水揚げされる魚種の多くが黒潮の恵みであると考えられます。

## 南方系の珍しい魚たち

南方系の珍しい魚たちは、秋頃に多く漁獲されます。これらの笠沙で漁獲される南方系の魚は、黒潮によって台湾周辺海域から流されてきますので、黒潮が北上する流路から東に大きく外れた琉球列島にはあまり出現しないという特徴があります。偶発的に海流によって運ばれてきて、辿り着いた海域で再生産（繁殖）できない現象を「無効分散」と言います。笠沙で稀に漁獲される南方系の魚の多くは無効分散です。このうち、冬季に寒さのために死亡する魚のことを死滅回遊魚と呼びます。以下に笠沙で漁獲された無効分散と思われる珍しい魚を紹介します。

### タイワンコロザメ

2006年６月に全長約70cmのタイワンコロザメが１個体（写真１）、笠沙沖の水深150m付近から刺網によって漁獲されました。過去、タイワンコロザメは日本では土佐湾から１個体が記録されているにすぎず、笠沙産の標本は２個体目の記録となりました（山下ほか，2012）。本種は台湾近海が主な生息地のようです。

写真１　タイワンコロザメ（KAUM-I. 299）

### ホシヤマトミズン

本種は種子島以南の琉球列島に広く分布しますが、日本本土からの記録はほとんどありません。2006年５月と2012年４月にそれぞれ１個体が笠沙の定置網で漁獲されました（畑ほか，2013）。これらの標本（写真２）は本種の日本における分布の北限記録となりました。

写真２　ホシヤマトミズン（KAUM-I. 46904）

### ミナミコノシロ

東アジアの固有種で、主に台湾からベトナム北部にかけての大陸棚上に生息しています。全長１ｍを超える大型魚で、台湾では主要な水産種として盛んに養殖されています。下あごの前方３分の２の唇が欠如し、繊毛状歯が露出しているのがミナミコノシロ属の特徴です。日本では過去に２回、青森県深浦町と笠沙町で漁獲されました。笠沙町の個体は全長55cmの若魚（写真３）で、2006年10月に定置網で漁獲されました（Motomura et al., 2007a）。両個体とも黒潮と対馬暖流によって台湾周辺海域から輸送されてきたと考えられ、日本では再生産していません。

写真３　ミナミコノシロ（KAUM-I. 956）

### カンムリブダイ

カンムリブダイはサンゴを食べる大型のブダイの仲間で、国内では琉球列島南部（特に八重山諸島）に生息し、沖縄県では絶滅危惧種Ⅱ類に指定されています。これまで沖縄本島が分布の北限と考えられていましたが、2009年12月に笠沙から体長95cmの個体（写真４）が漁獲されました（荻原ほか，2010）。本種は群れで行動することが多いのですが、笠沙では１個体の入網ということもあり、黒潮によって偶発的に運搬されてきたものと考えられています。

写真４　カンムリブダイ（KAUM-I．25448）

## ゴマアイゴ

これまでトカラ列島以南からのみ記録されていましたが、2010年11月に笠沙から体長34cmの個体（写真５）が漁獲されました（伊東ほか，2011）。日本本土からはこの１個体のみが知られています。本種は幼魚期にマングローブ林などの汽水域に好んで生息しています。国内では奄美大島以南で再生産していると思われます。笠沙産の個体は成魚であり、黒潮によって運ばれてきた典型的な成魚輸送の例です。

写真５　ゴマアイゴ（KAUM-I．34038）

## ラクダハコフグ

ラクダハコフグは日本国内から６報の記録がありますが、根拠となる標本は宮崎県産の１個体のみが知られていました（三木ほか，2017）。2013年１月と2017年11月にそれぞれ１個体のラクダハコフグが笠沙沖の水深20mと36mに設置された定置網で漁獲されました（写真６）。現在のところ、本種は国内では上記３個体のみが保管されています。

写真６　ラクダハコフグ（KAUM-I．109988）

## タキフグ

タキフグはインド・西太平洋に広く分布していますが、日本沿岸においては、山口県から採集された２個体のみが記録されていました。2010年４月に笠沙から体長23cmの個体（写真７）が漁獲されました（畑ほか，2012）。日本沿岸からの３個体目の記録となりました。なお、山口県産２個体目の標本は現在行方が分かっていませんので、笠沙産の標本はとても貴重です。日本産の個体は黒潮と対馬暖流によって南方から運ばれてきたものと考えられます。

写真７　タキフグ（KAUM-I．27758）

## 笠沙で発見された日本初記録の魚たち

これまで日本には生息していないと思われていた、外国の海を主な生息地とする魚が、笠沙でたくさん発見されています。ここでは笠沙の定置網で漁獲された個体に基づいて日本初記録種として報告された魚を紹介します。多くは笠沙産の標本に基づいて新しい和名が提唱されました。

## イトウオニヒラアジ

2007年に笠沙産の２標本に基づき、日本初記録種として報告されました（Motomura et al., 2007b）。本種はこれまでインドネシア以南からのみ知られていましたので、笠沙の標本（写真８）は北半球で初めての記録となりました。標準和名は、本種を発見した笠沙町漁業協同組合の伊東正英さんに因み、イトウオニヒラアジと命名されました。本種は全長1m近くに達しますが、日本からは最大でも30cm程度の若魚のみが漁獲されています。

写真８　イトウオニヒラアジ（KAUM-I．1098）

## ヒシカイワリ

2007年に笠沙産の９標本（写真９）に基づいて日本初記録種として報告されました（Motomura et al., 2007b）。笠沙では幼魚～若魚が秋から冬にかけて水揚げされます。日本から成魚の記録はありません。

写真９　ヒシカイワリ（KAUM-I. 1120）

## カガヤキミゾイサキ

2014年12月19日に笠沙で体長48cmの個体（写真10）が漁獲され、2015年にカガヤキミゾイサキと命名されました（Hata et al., 2015）。和名は本個体の金色に輝く体色に因みます。現在のところ、日本からは笠沙の1個体のみが記録されています。黒潮による無効分散であると考えられます。

写真10　カガヤキミゾイサキ（KAUM-I. 67816）

## イワツキクロダイ

2016年12月８日に笠沙で体長25cmのメス（写真11）が漁獲され、2017年にタイ科の研究者である宮崎大学の岩槻幸雄教授に献名されました（藤原ほか, 2017）。これまでは台湾の固有種であると考えられていました。日本からは笠沙産の１個体しか知られておらず、黒潮による無効分散であると考えられます。

写真11　イワツキクロダイ（KAUM-I. 96697）

## ユウダチスダレダイ

本種は長い間沖縄島以南の琉球列島に分布すると考えられてきましたが、その根拠となる標本が実は海外産であることが判明しました。その結果、本種は日本には生息しないと思われていましたが、2011年11月に笠沙で２個体（写真12）が漁獲され、日本で初めての正式な記録となりました（上城ほか, 2015）。現在のところ、日本では笠沙以外からの記録はありません。

写真12　ユウダチスダレダイ（KAUM-I. 52165）

## アカネヒメジ

笠沙で採集された20標本（写真13）と内之浦産の１標本に基づき、2012年に日本初記録種として報告されました（Motomura et al., 2012）。和名は本種の茜色の体色に因みます。ヒメジとよく似ていますが、尾鰭の模様が異なります。

写真13　アカネヒメジ（KAUM-I. 11011）

## サクヤヒメジ

2011年に笠沙で採集された標本（写真14）に基づき、新種として発表されました（Yamashita et al., 2011）。現在のところ日本からのみ知られています。標準和名の「サクヤ」は本種が多く生息する笠沙の地名に縁のある日本神話の女神、木花咲耶姫（コノハナサクヤヒメ）を語源として命名されました。木花咲耶姫のひ孫が神武天皇です。学名は笠沙町漁業協同組合の伊東正英さんに献名されました。本種は薩摩半島西岸に多くみられ、地元のスーパーでは食用として多く販売されています。

写真14　サクヤヒメジ（KAUM-I. 21091）

## ユカタヒメジ

2018年３月に笠沙産の１標本（写真15）に基づき、日本初記録種として報告されました（萬代ほか, 2018）。本種はこれまでオーストラリアとインドネシアからのみ知られていましたので、笠沙の標本は北半球で初めての記録となりました。北半球ではこの１個体しか見つかっていません。

写真15　ユカタヒメジ（KAUM-I. 10466）

## マサカリテングハギ

2011年11月５日に笠沙で体長32cmの個体（写真16）が漁獲され、伊豆半島で漁獲された個体と合わせて2013年に日本初記録として報告されました（瀬能ほか, 2013）。標準和名は頭部の角張った形状と細長い体形が「まさかりの刃」を連想させることに因みます。2016年に笠沙から３個体目が採集されました。現在のところ、日本からは上記３個体のみが記録されているにすぎません。

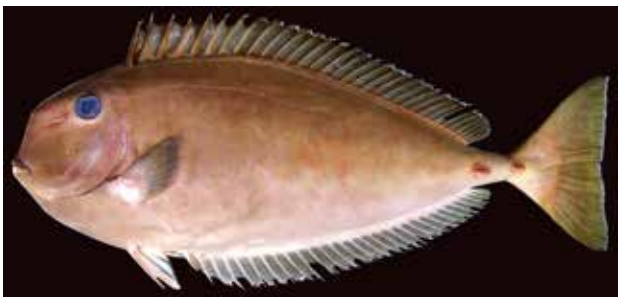


写真16　マサカリテングハギ（KAUM-I. 43820）

## カチドキダルマガレイ

2009年10月17日に笠沙で体長８cmのオス（写真17）が漁獲され、2012年にカチドキダルマガレイと命名されました（大橋･本村, 2012）。「カチドキ（勝鬨）」は、体の裏側（無眼側）のＶ字状の暗色域（写真18）がVictory勝利を連想させることに因みます。現在のところ、日本からは笠沙と種子島から１個体ずつのみが記録されています。両個体ともオスで、定置網で漁獲されています。本種はオスの無眼側に模様があり、メスにはありません。海底にへばりついて生活しているはずの本種のオスのみが定置網にかかるのは、メスへの求愛行動で無眼側の模様を見せる際に流されて入網してしまったのかもしれません。

写真17　カチドキダルマガレイ　有眼側（KAUM-I. 22677）

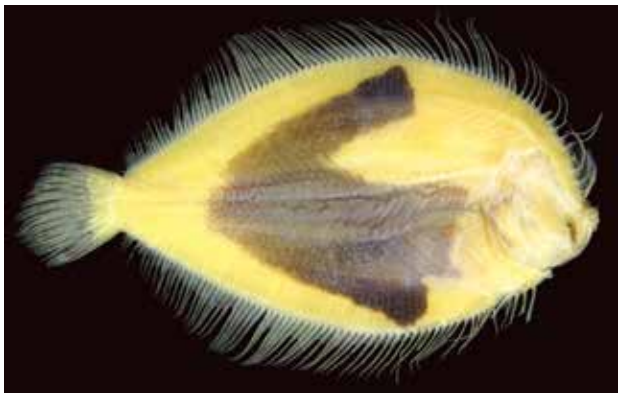


写真18　カチドキダルマガレイ　無眼側　固定標本（KAUM-I. 22677）

## 北方系の魚たち

前述のように笠沙では多くの南方系の魚が漁獲されています。しかし、本来は北海道から八代海周辺にかけての日本海沿岸に広く分布する魚が笠沙に流されてくることが知られています（本村，2012, 2015）。これは薩摩半島西岸沖に卓越する南下流が九州北西部周辺の沿岸水を引き込んで笠沙周辺に運んでくるからと考えられています。この南下流の影響は屋久島にまでおよんでいることが明らかになっています（本村，2015;岩坪ほか，2015）。ここでは、薩摩半島南下流によって偶来するものの、笠沙周辺では再生産していないと思われる魚を紹介します。

### クサウオ

本種はこれまで九州では長崎県と鹿児島県の獅子島からのみ記録されていましたが（目黒，2007）、最近、笠沙沖からも１個体（写真19）が漁獲されました。笠沙町の個体は本種の日本沿岸における分布の南限記録となります。九州以外の国内では北海道南部から瀬戸内海にかけて分布します。

写真19　クサウオ（KAUM-I. 115244）

### メバル類

これまで“メバル”と呼ばれていた魚は、最近シロメバル（写真20）、アカメバル（写真21）、クロメバルの３種に分類されました。これら３種は国内では九州北西部以北の日本海沿岸と宮崎県や瀬戸内海以北の太平洋沿岸が主な分布域です。笠沙には薩摩半島南下流によって長崎県や熊本県から流されてきているものと考えられます。一部は鹿児島湾内まで運搬されています。同属のウスメバルは屋久島から記録されていますが、これも笠沙沖を南下して屋久島に到達したと考えられています（岩坪ほか，2015）。

写真20　シロメバル（KAUM-I. 83660）

写真21　アカメバル（KAUM-I. 73573）

### クジメ

アイナメ属の中ではもっとも南方にまで分布を広げている種ですが、それでも主な分布域は鹿児島県長島列島以北の日本海沿岸と四国以北の太平洋沿岸です。これまでに２個体（写真22）が笠沙周辺から記録されていますが、いずれも４月に採集されています（畑ほか，2017）。また、大隅諸島馬毛島沖では５月に採集された標本が鹿児島大学総合研究博物館に保管されています。クジメの産卵期は11月末から12月ころであり、薩摩半島南下流によって卵・仔稚魚が流されてきて、定着先で成長した個体が春に採集されたものと思われます。笠沙や大隅諸島では高水温によって越夏できない死滅分散魚（死滅回遊魚）であると思われます。

写真22　クジメ（KAUM-I. 11916）

## 引用文献


萬代あゆみ・伊東正英・本村浩之．2018．鹿児島県から得られた北半球初記録のヒメジ科魚類 *Upeneus spottocaudalis*ユカタヒメジ（新称）．魚類学雑誌，doi 10.11369/jji.17-056.

藤原恭司・伊東正英・本村浩之．2017．鹿児島県から得られた日本初記録のタイ科魚類 *Acanthopagrus taiwanensis*イワツキクロダイ（新称）．魚類学雑誌，64: 107-112.

畑　晴陵・伊東正英・原口百合子・本村浩之．2012．フグ科タキフグ*Takifugu oblongus*の日本沿岸からの３個体目の記録．日本生物地理学会会報，67: 257-260.

畑　晴陵・伊東正英・石森博雄・本村浩之．2013．鹿児島県から得られたニシン科ホシヤマトミズン*Amblygaster sirm*の記録．Nature of Kagoshima，39: 23-26.

Hata, H., M. Itou and H. Motomura. 2015. First Japanese record of the haemulid fish *Pomadasys kaakan* (Perciformes), from Kagoshima Prefecture, southern Japan. Species Diversity, 20: 115-120.

畑　晴陵・伊東正英・本村浩之．2017．薩摩半島西岸から得られたクジメ．Nature of Kagoshima，43: 93-100.

伊東正英・松沼瑞樹・岩坪洸樹・本村浩之．2011．鹿児島県笠沙沿岸から得られたアイゴ科魚類ゴマアイゴ*Siganus guttatus*の北限記録．Nature of Kagoshima，37: 161-164.

岩坪洸樹・山口　実・畑　晴陵・本村浩之．2015（May）．屋久島から得られたウスメバル*Sebastes thompsoni*の南限記録．Nature of Kagoshima，41: 41-45.

目黒昌利．2007．クサウオ．P. 11．本村浩之（編）鹿児島大学総合研究博物館の魚類コレクション．鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター，No. 16.

三木涼平・村瀬敦宣・和田正昭．2017．宮崎県門川湾で採集された標本に基づく日本初記録のラクダハコフグ．日本生物地理学会会報，71: 63-67.

本村浩之．2012．黒潮が育む鹿児島県の魚類多様性．Pp. 19-45．松浦啓一（編）黒潮の魚たち．東海大学出版会，東京.

本村浩之．2015．琉球列島の魚類多様性．Pp. 56-63．日本生態学会（編）南西諸島の生物多様性，その成立と保全．エコロジー講座８．南方新社，鹿児島.

Motomura, H., M. Ito, M. Takayama, Y. Haraguchi and M. Matsunuma. 2007a. Second Japanese record of a threadfin, *Eleutheronema rhadinum* (Perciformes: Polynemidae), with distributional implications. Biogeography, 9: 7-11.

Motomura, H., S. Kimura and Y. Haraguchi. 2007b. Two carangid fishes (Actinopterygii: Perciformes), *Caranx heberi* and *Ulua mentalis*, from Kagoshima: the first records from Japan and northernmost records for the species. Species Diversity, 12: 223-235.

Motomura, H., M. Yamashita, M. Itou, Y. Haraguchi and Y. Iwatsuki. 2012. First records of the Two-tone Goatfish, *Upeneus guttatus*, from Japan, and comparisons with *U. japonicus* (Perciformes: Mullidae). Species Diversity, 17: 7-14.

荻原豪太・吉田朋弘・伊東正英・山下真弘・桜井雄・本村浩之．2010．鹿児島県笠沙沖から得られたカンムリブダイ*Bolbometopon muricatum*（ベラ亜目：ブダイ科）の記録．Nature of Kagoshima，36: 43-47.

大橋祐太・本村浩之．2012．鹿児島県から得られた日本初記録のダルマガレイ科魚類 *Crossorhombus valderostratus*カチドキダルマガレイ（新称）．Nature of Kagoshima，38: 145-151.

瀬能　宏・御宿昭彦・伊東正英・本村浩之．2013．日本初記録のニザダイ科テングハギ属の稀種マサカリテングハギ(新称)とその分布特性．神奈川県立博物館研究報告（自然科学），42: 91-96.

上城拓也・伊東正英・本村浩之．2015．スダレダイ科ユウダチスダレダイ*Drepane punctata*の日本からの確かな記録．Nature of Kagoshima，41: 145-147.

Yamashita, M., D. Golani and H. Motomura. 2011. A new species of *Upeneus* (Perciformes: Mullidae) from southern Japan. Zootaxa, 3107: 47-58.

山下真弘・吉田朋弘・本村浩之．2012．鹿児島県産軟骨魚類標本目録．Nature of Kagoshima，38: 119-138.

# 笠沙で水揚げされる水産重要種
## Commercial fishes landed at Kasasa

伊東正英（笠沙町漁業協同組合）

南さつま市は薩摩半島の南西部、東経130°19′、北緯31°24′に位置し、北は鹿児島市と日置市、東は枕崎市と南九州市に隣接し、南側と西側は東シナ海に面しています。総面積は283.59 km$^2$で県全体の3.1％を占めます。

市内には加世田漁協、笠沙町漁協、南さつま漁協、坊泊漁協と4つの漁協があります。笠沙町漁業協同組合は、薩摩半島南西部吹上浜突端の風光明媚な野間半島にあります。片浦漁港市場は、消費者の皆様に安心安全な魚を供給する観点から、高度衛生管理型の市場となっており、少量多品種生産が特長で、魚種の多さは、日本でも有数の市場です。漁業従事者は正組合員数が53名、准組合員数172名で、主流の定置網をはじめ、養殖、曳網、刺網、一本釣など多種な漁法が使われています。年間の漁獲量は916トン（平成28年度）で、年々減少傾向にあり、魚種別ではブリの水揚げが一番多くなっています。また、当漁協では定置網、曳縄などで採取したマグロやサメ、エイなど様々な魚を全国の水族館へ供給しており、今では海外の水族館に送ることもあります。ここでは、当漁協で水揚げされる主な商業種の紹介をします。

### アカシュモクザメ

写真23　アカシュモクザメ

定置網では様々なサメの仲間が獲れますが、アカシュモクザメ（写真23）は春に大量に入網することがあります。サメは本来蒲鉾の原料として扱われますが、鹿児島ではさつま揚げに利用されます。また、笠沙では水族館にも展示用に供給され、海外にも搬出しています。

### ウルメイワシ

写真24　ウルメイワシ

春から夏にかけ定置網で漁獲されます（写真24）。身が弱く、氷をよく利かせないと身が柔らかくなってしまいます。沢山漁獲されると加工業者のある阿久根に出荷され、干物になります。イワシの仲間ではウルメイワシの干物が最高級です。

### キビナゴ

キビナゴ（写真25）は鹿児島の郷土食材として重要種として挙げられます。定置網でも漁獲されますが、キビナゴ専用の刺網で獲られており、サイズも大きく値段も良いです。鮮度の落ちが早く、氷を利かせないと透明度のある身が赤くなります。

写真25　キビナゴ

### カタクチイワシ

写真26　カタクチイワシ

笠沙ではタレと呼ばれ、大きく黒い個体をクロダレ、小さくて白っぽい個体をシロダレと呼び、人それぞれ好みが分かれます。定置網で冬場に大量に漁獲（写真26）されることがあります。

### アカヤガラ

写真27　アカヤガラ

定置網で漁獲されます（写真27）。口が長く体長の３分の１程あり、さらに体も細いです。身の歩留まりが非常に悪いですが、味の評価が良く、大型の個体は高級魚です。似ているアオヤガラは食用にされず捨てられてしまいます。

## ボラ

写真28　ボラ

10月頃に定置網で漁獲されますが、魚目当てではなく卵巣を取り出します（写真28）。ボラの卵巣は高級食材カラスミの原料で、非常に高値で取引されます。魚体から卵を取り出すには技術が必要で、少しでも傷付けると商品の価値が無くなります。

## トビウオ類

写真29　トビウオ類

以前は夏にだけ漁獲されていましたが、今ではトビウオの魚種も増え、年中見ることが出来ます。定置網で漁獲（写真29）されますが、シイラなど捕食魚種がいると網から飛んで逃げてしまいます。また最盛期には船を走らせると飛んで逃げる姿を見ることが出来ます。

## カサゴ

写真30　カサゴ

鹿児島ではアラカブと呼ばれ、釣りでは初心者でも港などで簡単に釣ることが出来るうえ、味も良く人気があります。定置網では滅多に獲れず、釣りや刺網、延縄などで漁獲（写真30）され、値段も良いです。

## ヒラスズキ

写真31　ヒラスズキ

岩礁域に設置されている定置網で主に漁獲され、特に冬場は大型の個体が増えます。砂地に設置した定置網ではヒラスズキ（写真31）よりもスズキの漁獲量が多いです。また、笠沙は釣人のヒラスズキ釣り場としても有名です。

## オオモンハタ

写真32　オオモンハタ

定置網や釣り、延縄などで春から秋にかけ漁獲される高級魚（写真32）です。昔は笠沙では滅多に見られない魚でしたが、10年程前辺りから徐々に増えて来ています。

## クエ

写真33　クエ

定置網や釣りなどで漁獲され、大型になり、特に冬場は値段が高くなります（写真33）。九州ではクエのことをアラと呼びますが、近年チャイロマルハタやヤイトハタなど体側にゴマ模様のある大型のハタの漁獲が増え、ゴマ模様のあるハタをゴマアラと呼び、クエのことを今ではホンアラと呼びます。

## シイラ

写真34　シイラ

主に定置網で漁獲され、昔は夏の魚でしたが、今では通年獲れます（写真34）。獰猛で定置網に入網した時は網の中の魚を追いまわします。大型になりますが、鮮度の落ちが早く、漁獲量が増えると一気に値段が下がります。

## ギンガメアジ

写真35　ギンガメアジ

秋から冬にかけ毎日のように幼魚がまとまって定置網で獲れます。成魚は７月頃から冬にかけ単発にまとまって獲れます（写真35）。ギンガメアジ属の中では一番多く水揚げがあるものの、味の評価は一番下で値段も安いです。関東地方ではシガテラ毒の疑いから販売を自粛する地区もあり、東京への出荷は出来ません。

## マルアジ

マアジに似ており、マアジよりも肉厚ですが、味の評価は低く、値段が安いです。定置網では6月頃にトン単位でまとまって漁獲（写真36）されることがあります。

写真36　マルアジ

## シマアジ

笠沙で漁獲される魚の中でキロ単価では上位に位置する高級魚であり、小さな個体でも高値が付きます。6–11月が漁期で、定置網などで漁獲(写真37)されます。

写真37　シマアジ

## カンパチ

鹿児島では養殖のカンパチが有名ですが、笠沙で漁獲されるカンパチは天然物です（写真38）。1キロ未満の個体が多いですが、「アカバラ」と呼ばれる大型の個体も稀に揚がります。

写真38　カンパチ

## ブリ

定置網ではブリの水揚げ量・漁獲高が年間を通して半分近くを占め、重要魚種です（写真39）。しかし、近年全国的にブリの漁獲量が増え、魚価が低迷し、漁獲高低迷の一番の原因となっています。年末から２月頃に8–10キロの寒ブリが獲れ、3–4月に4–6キロのブリが漁獲されます。笠沙では４月に獲れる４キロサイズのブリを桜ブリと呼びます。

写真39　ブリ

## マアジ

マアジ（写真40）には黒っぽい大型の黒アジと白くて丸型の白アジの２つの型があります。これらは生息している環境で違い、黒アジは主に岩場、白アジは砂地であり、岩場に設置されている定置網では黒アジ、砂地に設置されている定置網では白アジが漁獲されます。白アジの方が小さいですが、味の評価が高いです。

写真40　マアジ

## オキヒイラギ

定置網で漁獲され、時にトン単位でまとまって獲れることがあります（写真41）。小さいうえ、身が薄く平べったい魚で見た目に価値がなさそうですが、味の評価は良く値段も良いです。同じ仲間のヒメヒイラギが混獲されますが、こちらは評価が悪く、水揚げする時は取り除かなければなりません。

写真41　オキヒイラギ

## イサキ

釣りや定置網で漁獲され（写真42）、特に岩礁付近に設置している定置網では５月頃から８月までの魚の少ない時期に旬を迎え多く漁獲されます。沢山獲れても値段があまり下がらず漁師に喜ばれる魚です。

写真42　イサキ

## イトヨリダイ

笠沙では釣りにより多く漁獲されるものの、定置網では滅多に獲れることがありません。体がピンクに近い赤色で、体側に黄色のラインが多数入り綺麗な魚（写真43）であり、その色を活かして皮を残し調理されることが多く、料理も綺麗です。

写真43　イトヨリダイ

## クロダイ

写真44　クロダイ

鹿児島でクロダイというとメジナであり、笠沙ではクロダイをチヌと呼びます。産卵前の冬から春にかけよく肥えて味の評価が上がります。定置網や刺網、釣りで漁獲されます（写真44）。

## マダイ

写真45　マダイ

一般的に有名な魚で水産重要種です（写真45）。様々な漁法で通年漁獲されますが、特に冬から春にかけて大型の個体が揚がります。春の産卵時期には雄の体色が黒ずみ、値段が下がります。

## イシダイ

写真46　イシダイ

磯釣りをする人にとっては憧れの魚であり、笠沙でも大型のイシダイが釣れ、人気があります。定置網でも５月頃からよく肥えた個体が獲れだします（写真46）。美味しく高値の魚です。

## メジナ

写真47　メジナ

鹿児島ではメジナ（写真47）をクロ・クレと呼びます。笠沙は釣人に人気のポイントが多く、休日には磯や瀬が多くの釣人で賑わいます。特に冬場は寒グロと呼び、脂がのり美味しくなります。クロメジナよりも評価が高く、値段も良いです。

## バショウカジキ

写真48　バショウカジキ

秋に漁獲され鹿児島では秋太郎の名で知られます（写真48）。笠沙では定置網や流し刺網で漁獲されます。近年早くて春頃から獲れ出し秋に脂がのり美味しくなります。漁獲されると鮮度保持のため直ぐに内臓や鰓が取り除かれます。

## アカカマス

写真49　アカカマス

カマスの仲間は数種水揚げされますが、アカカマス（写真49）が一番値段が高く味も良いです。定置網や釣りで漁獲されますが、定置網でまとまって水揚げされると一気に値段が下がります。

## タチウオ

写真50　タチウオ

昔は冬場に定置網で１キロに満たない個体が大量に漁獲されましたが、近年は漁獲量が減る反面、2–5キロもある大型の個体が獲れるようになりました（写真50）。歯が鋭く体は銀粉に覆われ、丁寧に扱わないと銀粉が剥げ値段が下がります。

## カマスサワラ

写真51　カマスサワラ

笠沙でサワラと言うとこの魚です（写真51）。１メートル以上ある大型の魚で歯が鋭く、暴れた時に口に触れると怪我をする恐れがあり危険な魚です。夏場に漁期を迎えます。

## マルソウダ

写真52　マルソウダ

定置網で通年漁獲され、ヒラソウダに比べるとまとまって獲れます。ヒラソウダは刺身で食されますが、マルソウダ（写真52）は刺身では食べることができません。その反面、カツオ節の代用品として使われ、カツオが不漁の時は値段が上がります。

## ヒラソウダ

写真53　ヒラソウダ

定置網で通年漁獲（写真53）されますが、特に冬場に脂がよくのり美味しいです。血合いが多く鮮度が落ちるのが早いため、ほとんどが地元消費で値段が安いです。そのため、値段の割に美味しく地元での評価が良いです。皮の下に脂が多くあり、皮を炙って刺身で食されます。

## スマ

写真54　スマ

定置網や曳縄で漁獲されます（写真54）。最近では全身トロで幻の高級魚として味の評価が見直され、全国的に人気が出て来て値段も上がりました。笠沙でも養殖が行われるようになったばかりです。

## ハガツオ

写真55　ハガツオ

カツオの仲間で口に鋭い歯があります。定置網や曳縄で漁獲されます（写真55）。脂がのり美味しく、笠沙では人気のある魚ですが、全国的には知名度が低いです。鮮度維持のため、漁獲されると直ぐに首を折り水揚げされます。

## サバ類

写真56　サバ類

笠沙ではマサバ、ゴマサバ共に定置網、釣りで漁獲され、定置網では主体となってまとまって獲れます（写真56）。秋サバが有名で、秋から冬にかけて脂がのり美味しくなります。ゴマサバはマサバのようには脂がのりませんが、味の評価が時期によりマサバを上回ることもあります。

## サワラ

写真57　サワラ

笠沙ではサゴシと呼ばれ（写真57）、サワラと言うとカマスサワラという別種をさします。定置網や曳縄で漁獲され、冬から春にかけては大型、夏から秋にかけては小型の個体がまとまって漁獲されます。大型のものは脂がのり美味しいです。

## キハダ

写真58　キハダ

クロマグロよりも胸鰭が長く、特に50キロ以上ある個体では背鰭と臀鰭も長く伸び黄色くよく目立ちます。夏場の潮が澄んだ時に大型の個体が定置網で獲れます（写真58）。値段はクロマグロよりも安いです。

## クロマグロ

写真59　クロマグロ

日本人が好きな代表的な魚です。笠沙では定置網や曳き縄で漁獲（写真59）されるほか、養殖も行われています。体中に毛細血管網が張り巡らされ、海水温よりも体温が高いため、漁獲すると直ぐに氷で冷やさないと身が焼けてしまいます。

## ヒラメ

写真60　ヒラメ

知名度が高く、誰もが知る魚であり、高級魚です(写真60)。冬場に漁獲量が増え、良く肥えて旬を迎えます。中間育成された稚魚の放流が行われており、放流個体は無眼側のどこかに有眼側の体色の一部があり、市場では区別されています。

## カワハギ

写真62　カワハギ

釣りでも漁獲されますが、ほとんどが定置網で漁獲され、活魚で水揚げされます（写真62)。カワハギはその名の通り皮を簡単に剥ぐことが出来ます。刺身は肝を醤油に溶いて食べることが主流で、年中獲れますが、肝臓に脂がのり大きくなる秋から冬にかけてが旬です。

## ウスバハギ

写真61　ウスバハギ

１キロを超え大型になるカワハギの仲間で、定置網により漁獲されます（写真61)。冬に旬を迎え、漁獲も増え、値段も上がります。笠沙ではウマヅラと呼ばれ、当のウマヅラハギはアオハギと呼ばれます。

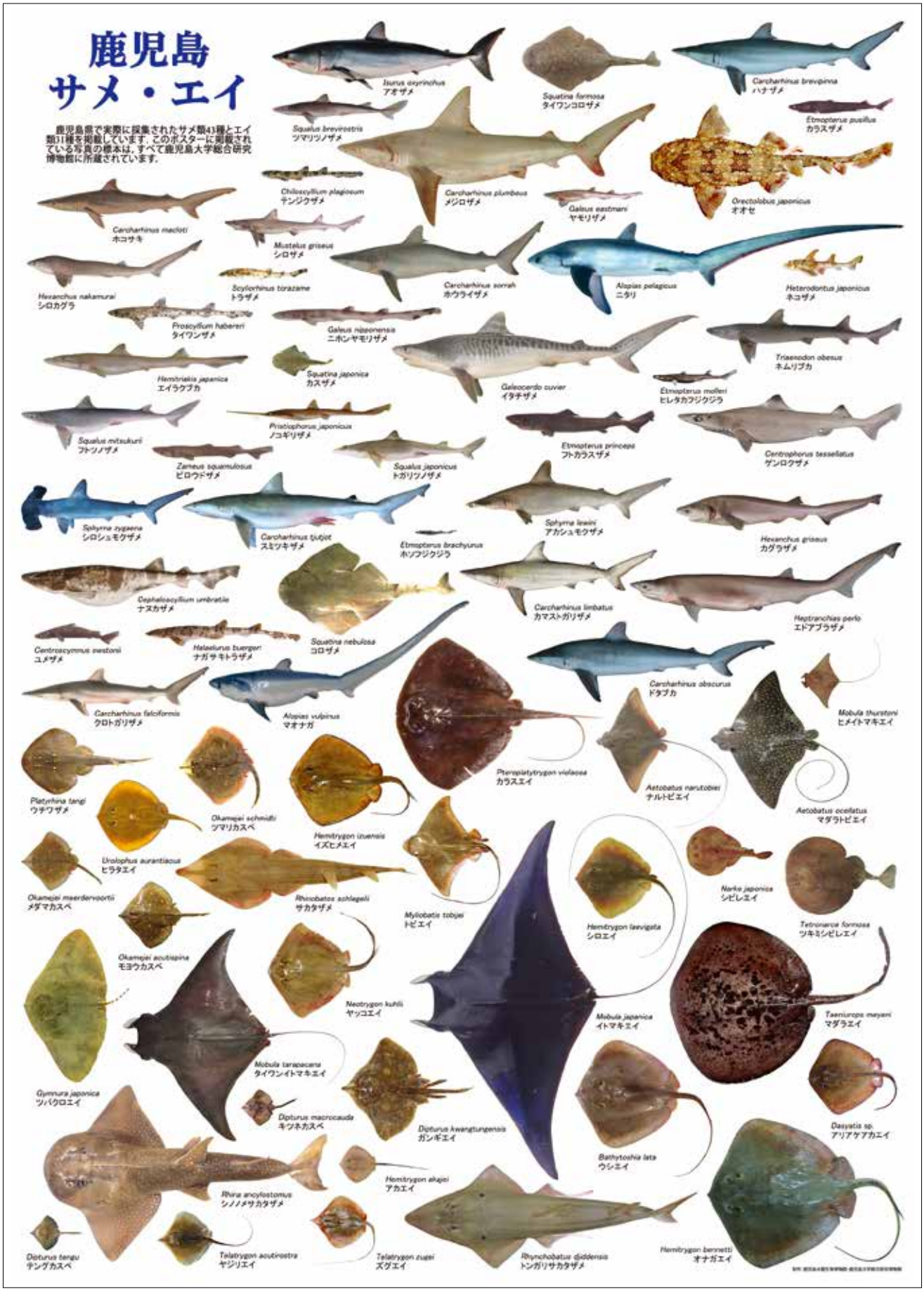
## トラフグ

写真63　トラフグ

言わずと知れた高級魚ですが、内臓に強い毒をもち、調理には免許が必要です。定置網で漁獲（写真63）されますが年々減少しています。活魚で水揚げされますが、歯が強く噛み付くので、怪我をしないように歯をペンチなどで折って水揚げします。

漁業風景

特別展で配布される A1 サイズの「笠沙の魚たち」ポスター




特別展で配布される A2 サイズの「鹿児島のサメ・エイ」ポスター

## 鹿児島大学総合研究博物館　第18回　特別展

# 笠沙の魚たち

*Fishes of Kasasa*

日　時　2018年７月１日～８月31日
　　９：00～17：00
場　所　笠沙恵比寿
入場料　大人200円（中学生以下無料）

東シナ海に面した笠沙の豊かな海。ここでみられる500種の魚の標本や触れるサメやエイの標本を展示します。笠沙で記録された珍しい魚や水産重要種の情報が満載。

共催　鹿児島大学総合研究博物館・笠沙恵比寿・鹿児島水圏生物博物館
協力　笠沙町漁業協同組合

**●特別展実行委員会**

本村浩之（鹿児島大学総合研究博物館）・山崎英二（笠沙恵比寿）・岩坪洸樹（鹿児島水圏生物博物館）・伊東正英（笠沙町漁業協同組合）・原口百合子・大西聡子・田代郷国・ジョン　ビョル・畑　晴陵・シリカンヤ　チュンタナウォン・和田英敏・藤原恭司・川間公達・萬代あゆみ・上城拓也・森下悟至・中村潤平・エマニュエル　デロロ・荒木萌里・田口潤平（鹿児島大学総合研究博物館）

**●問い合わせ**

**鹿児島大学総合研究博物館**
〒890-0065　鹿児島市郡元1-21-30
Tel：099-285-8141　Fax：099-285-7267
URL: http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/

**鹿児島水圏生物博物館**
〒898-0001　鹿児島県枕崎市松之尾町33-1
枕崎お魚センター内
URL: http://www.kmab.info/

**笠沙恵比寿**
〒897-1301　南さつま市笠沙町片浦14847-1
Tel：0993-59-5020　Fax：0993-64-2281
URL: http://www.kasasaebisu.com/

鹿児島大学総合研究博物館　News Letter　No.43
■発行/2018年７月14日　■編集・発行/鹿児島大学総合研究博物館
TEL：099-285-8141　FAX：099-285-7267
http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/